

## 外国語ワーキンググループにおける取りまとめの概要(案) 抜粋

(指導体制、教員養成・研修等)

外国語教育に関する教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備、小学校の中・高学年それぞれの課題に応じた指導体制の整備が不可欠である。

小学校においては、校長がリーダーシップを発揮し、学校全体の取組方針を明確にした上で、全教員の共通理解を図りながら、中核教員を中心とした校内の英語教育に係る指導体制の強化に取り組むことが重要である。また、効果的な教材開発とともに、必要な指導者の確保を含め、地域の実情に応じた柔軟かつ効果的な指導を行う体制づくりが不可欠である。

小・中・高等学校の一貫した外国語教育のP D C Aサイクル<sup>1</sup>を通じて、「英語教育推進リーダー」と英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高等学校の連携による研修や、教育委員会と大学・外部専門機関との連携による研修などを実施するとともに、各学校を訪問し、指導計画の作成や学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。

**小・中・高等学校のコア・カリキュラム開発・普及による教職課程の改善・充実**、高学年の教科化に向けて小学校の現職教員が外国語の指導に関する専門性を高めることができるよう、小中の学びの円滑な接続を図るために必要な内容を加えた認定講習等の開設支援及び外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築する。

児童生徒が生きた外国語に触れる機会を一層充実するため、特別免許状の活用も含め、教員や外国語指導助手等としての外部人材の受け入れを一層推進する。併せて、外国語が堪能な地域人材や外国語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するための方策も講じる。

---

<sup>1</sup> 平成28年度より、都道府県ごとに「英語教育改善プラン」の策定・公表を行い、生徒・教員の英語力等の目標設定・管理の下、必要な研修等を実施。

# 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」 英語関係部分抜粋 （平成27年12月21日 中央教育審議会配付資料）

## 4. 改革の具体的な方向性

### (4) 新たな教育課題に対応した教員研修・養成

・英語教育の充実のため、次期学習指導要領改訂の検討状況も踏まえつつ、国は外部専門機関等との連携により、各地域の指導者となる「英語教育推進リーダー」の養成を推進する必要がある。各地域では、リーダー等が教育委員会と大学等が連携して実施する研修の企画・運営への参画、学校内外の研修講師、公開授業の実施や、地域の英語担当教員に対する指導・助言を行う等の役割を担い、小・中・高校の一貫した英語教育や、小学校の英語教育の専門性向上等を推進することが期待される。具体的には、「英語教育推進リーダー」と英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高校の連携による研修の実施や、各学校を訪問し、小・中・高校の接続を意識した指導計画の作成や「～することができる」という形で表したCAN-DO形式での学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。

また、このような地域のリーダーの活動が可能となるような体制整備が必要である。さらに、小学校教員が教科化に向けた専科指導や小・中・高校の一貫した学びの接続に留意した指導に当たることが可能となるよう必要な研修を充実するとともに、「免許法認定講習」の開設支援等による小学校免許状と中学校英語免許状の併有を促進する必要がある。

(略)

・英語教育については、小学校における英語の教科化への対応や中学・高等学校の「話す」「書く」の指導力の向上を図るため、大学、教育委員会等が参画して養成・研修に必要なコアカリキュラム開発を行い、課程認定の際の審査や各大学による教職課程の改善・充実の取組に活用できるようにする。また、小学校中学年の外国語活動導入と高学年の英語の教科化に向け、音声学を含む英語学など専門性を高める教科の科目とともに教職に関する科目を教職課程に位置付けるための検討を進めるべきである。

### (4) 教員養成に関する改革の具体的な方向性

特に、国立の教員養成を目的とする大学・学部は、地域のニーズを踏まえつつ、4(1)の新たな教育課題や以下に求められる課題に対応した取組を率先して実施することにより、国立大学に置かれる意義・目的を明確にするとともに、他大学・学部におけるモデルを提示して、その取組を普及・啓発することが重要である。具体的には、「第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会」の審議のまとめにおいて重点配分の評価指標の例として示された「人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組」の評価指標例の一つとして「地域教育(初等中等教育、職業教育、生涯学習等)への貢献状況」が取り上げられているが、このような取組として、アクティブ・ラーニングの充実、ICTの利活用、道徳教育、外国語教育、特別支援教育の充実などの初等中等教育における新たな教育課題に対応するための教員養成や教員研修の支援などの取組が考えられることから、各大学においては積極的にこれらの取組を進めていくことが求められる。また、教員養成学部を有する私立大学等についても、前述の教員育成協議会(仮称)に参画するなど、地域の教育委員会と連携の下、新たな課題等に対応した教員養成・研修を一体的に行うことを検討する必要がある。

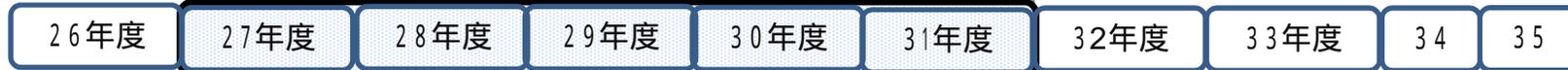
### (5) 教員免許制度に関する改革の具体的な方向性

中学校及び高等学校の教員免許状所有者による小学校での活動範囲の拡大

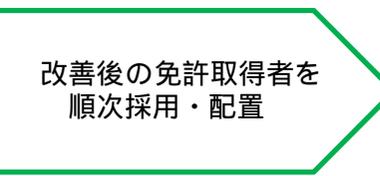
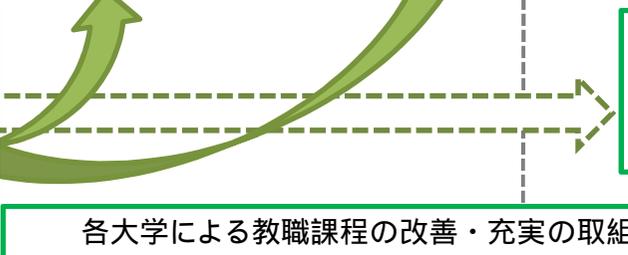
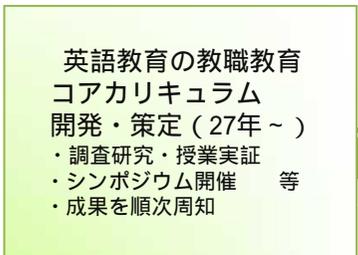
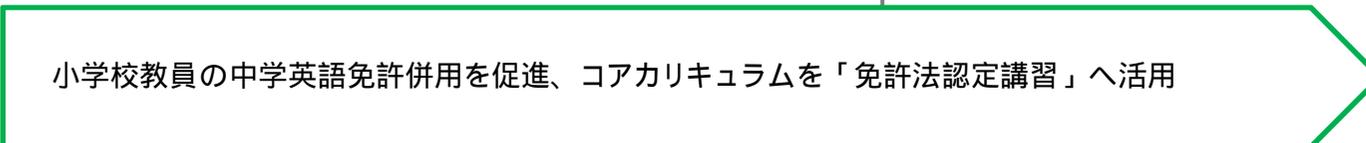
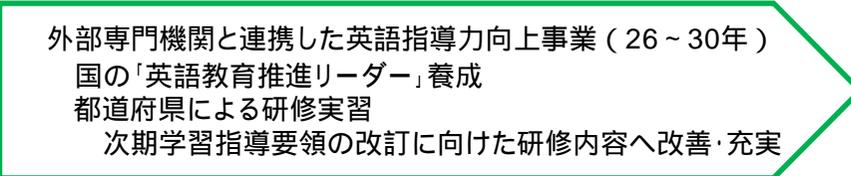
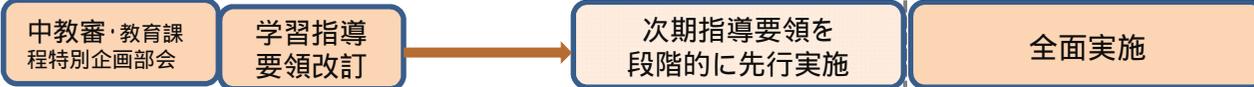
本年6月に学校教育法等の一部を改正する法律が制定され、義務教育学校が平成28年4月より導入されることが予定されており、これを契機として、全国的に小中一貫教育の取組が一層進むことが予想される。また、小学校における外国語教育の更なる充実などが検討される中、教科に関する高い専門性を持つ中学校等の教員を小学校として活用しやすくするため、教科等に加え学級担任も可能にするよう制度改正を行うことが必要である。

なお、相当免許主義は堅持しつつ、本措置により中学校等の教員を小学校又は義務教育学校の前期課程の教員として配置する場合には、任命権者等は小学校における組織、教育内容、学級運営等に関しあらかじめ研修を行うよう法令上措置すべきである。

# 小学校英語の早期化・教科化、中・高等学校英語の充実のための 教員養成・研修の充実に向けた施策等（イメージ）(案)



「英語教育の在り方  
に関する有識者会議」  
26年9月：報告



英語力・指導力の高い教員の養成・採用・研修を一体的に推進

## これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(工程表のイメージ)



# 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究

平成28年度予算額 30,560千円(58,113千円)

平成27年度に次期学習指導要領の方向性を踏まえて開発した、小・中・高等学校のコアカリキュラムを含むモデルプログラム(案)の実証・検証を通じ、更なる開発とともに普及を行う

【実施方法】 大学等の研究機関、民間調査機関 等に委託して行う。

## 1. 小・中・高等学校の現職教員を対象とした教員研修プログラムの開発・検証

教育委員会、大学、学校等の連携によるモデルプログラムを活用した研修実施の実証  
実際の活用や学会等へのヒアリングを通じた検証により、プログラムを改善  
「初任者研修」、「5年経験者研修」、「10年経験者研修」などの研修、「免許状更新講習」や「免許法認定講習」への活用  
活用事例集、映像資料の作成、普及

## 2. 小学校教員及び中・高等学校の英語担当教員の英語力・指導力向上に向けた大学の教職課程におけるコアカリキュラム(共通して達成する目標)を含めたモデルプログラムの開発・検証

各大学の小学校教員及び中・高等学校外国語の教職課程のプログラムにおけるコアカリキュラム等の実証 その際、大学は教育委員会と連携  
大学等における実際の活用や学会・研究会等へのヒアリングを通じた検証により、プログラムを改善  
大学の教職課程における活用  
活用事例集、映像資料の作成、普及

➡ 上記1. 2. について広く情報発信を行い、全国の教育委員会、大学関係者等の意見を反映、さらに成果の普及を図り、教員の英語力・指導力を向上

# (参考) 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究

教員の英語力・指導力強化に向けて、教育委員会等と大学等との連携により、事例収集・効果分析、プログラム開発等を通じて教員養成・採用・研修等の在り方の調査研究を行い、得られた成果の普及・活用促進を図り、今後の英語教育改革を踏まえた教員の英語力・指導力を向上

「今後の英語教育の改善・充実方策について～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言～」報告(平成26年9月26日)

(文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」)抜粋

必要な改革について

改革5. 学校における指導体制の充実

(3)改善の方向 小・中・高校に共通する指導体制 教員の養成・採用

## [小学校「各教科の指導法における英語」に関する科目のイメージ(例)]

- ・我が国及び、小学校段階における外国語教育の現状・意義・課題・教室英語等の運用
- ・児童の発達段階に応じた指導、音声や単語に慣れ親しんだり、日本語と英語の文構造の違いに気付いたりする等の指導などを含めた指導計画の作成(外国語活動や中学校外国語との接続等を含む)
- ・教材開発、教科書・教材の効果的な活用に関する研究・語彙、表現の指導
- ・児童のALT等とのチーム・ティーチングなどの模擬授業、授業観察
- ・発達段階に応じた4技能の能力を適切に測ることができる評価方法(「話すこと」や「書くこと」の能力を測るためのパフォーマンステスト等の在り方を含む)

## [教科「英語」に関する科目イメージ(例)]

- 英語学:  
英語の音声、単語、文法、言語習得過程等の基礎についての理解を深めるなどを目的とした科目・英語の音声、語彙、表現、文法及び第二言語習得理論等
- 英米文学:  
文学作品を読むことにより、文章表現などの英語力の向上に加え、英語圏の歴史、社会、文化についても学ぶことなどを目的とした科目  
・英語の文章表現、英語圏の歴史・社会・文化等
- 英語コミュニケーション:  
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能の能力を向上させること、コミュニケーション教育に関する理解を深めるなどを目的とした科目
- ・コミュニケーション能力を育成するための目標設定の在り方と目標達成のための具体的な手法・発表、討論、交渉などの能力の育成等
- 異文化理解:  
日本文化との比較などにより、英語圏の文化を学ぶことなどを目的とした科目  
・英語を日常的に使用している人々を中心とする世界における日常生活、風俗習慣、地理、歴史、文化、自然科学・異文化の人々とのコミュニケーション、非言語コミュニケーション等

## [教職に関する科目(各教科の指導法)のイメージ(例)]

- ・英語で行うことを基本とする授業の意義・現状・課題
- ・生徒の英語を用いた言語活動が中心の授業となる指導計画の作成(生徒が実際に英語を使用する機会を増やすための言語活動、身近な話題から社会課題などをテーマにしたペア・ワークやグループ・ワークの展開方法等を含む)
- ・教材開発、教科書・教材の効果的な活用に関する研究
- ・語彙、表現、文法指導(言語活動を通じた語彙や表現の習得、コミュニケーションを支えるものとしての文法の扱い及び言語活動と一体化した文法指導を含む)
- ・ALT等とのチーム・ティーチング、時事的な話題や社会課題などについて討論・交渉などを行う模擬授業・グループによる指導計画案の作成から教材研究などを行うマイクロ・ティーチング
- ・4技能の能力を適切に測ることができる評価方法(筆記テストに加え、特に「話すこと」や「書くこと」の能力を測るためのパフォーマンステスト等の在り方を含む)

# 平成27年度 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究 体制

## 全体会議

> ~ 全てのメンバーで構成。定期的開催し、方向性の共有、進捗管理、全体とりまとめ等を行う。  
 メンバー：大学(有識者)、英語担当指導主事(教育委員会)、現職教員(小・中・高等学校)  
 オブザーバー(文科省教科調査官ほか)  
 座長：粕谷恭子(東京学芸大学教授) 事務局：東京学芸大学

分科会

### 小学校教員の英語力・指導力向上に向けたプログラムの開発・検証

**統括者：粕谷恭子**  
 (東京学芸大学教授)  
 現状の外国語活動等に係る教職課程におけるプログラムの調査・分析  
 ・小免の課程認定を受けている約230大学を対象にした質問紙調査  
 ・大学への実地調査  
**効果的な教職課程におけるモデルプログラムの開発**  
 ・小学校英語教育関連の学会との協力  
 小学校英語教育学会 日本児童英語教育学会 大学英語教育学会 全国英語教育学会 など  
 ・有識者との意見交換  
**開発した教職課程のモデルプログラムの検証**  
 ・大学・教育委員会・関連学会等からのフィードバックの分析  
 ・大学での試行・検証  
**成果の報告・普及**  
 ・シンポジウムの開催、報告書の作成

協力者

### 中・高等学校教員の英語力・指導力向上に向けたプログラムの開発・検証

**統括者：馬場哲生**  
 (東京学芸大学教授)  
 中・高等学校教員の教職課程に関する調査・分析  
 ・中・高免(英語)の課程認定を受けている約400大学を対象にした質問紙調査  
 ・大学への実地調査  
 ・有識者との意見交換  
**効果的な教職課程におけるモデルプログラムの開発**  
 ・中・高英語教育関連の学会との協力  
 ・有識者との意見交換  
**開発した教職課程のモデルプログラムの検証**  
 ・大学・教育委員会・関連学会等からのフィードバックの分析  
 ・大学での試行・検証  
**成果の報告・普及**  
 ・シンポジウムの開催、報告書の作成

協力者

### 小・中・高等学校の現職教員を対象とした教員研修プログラムの調査分析

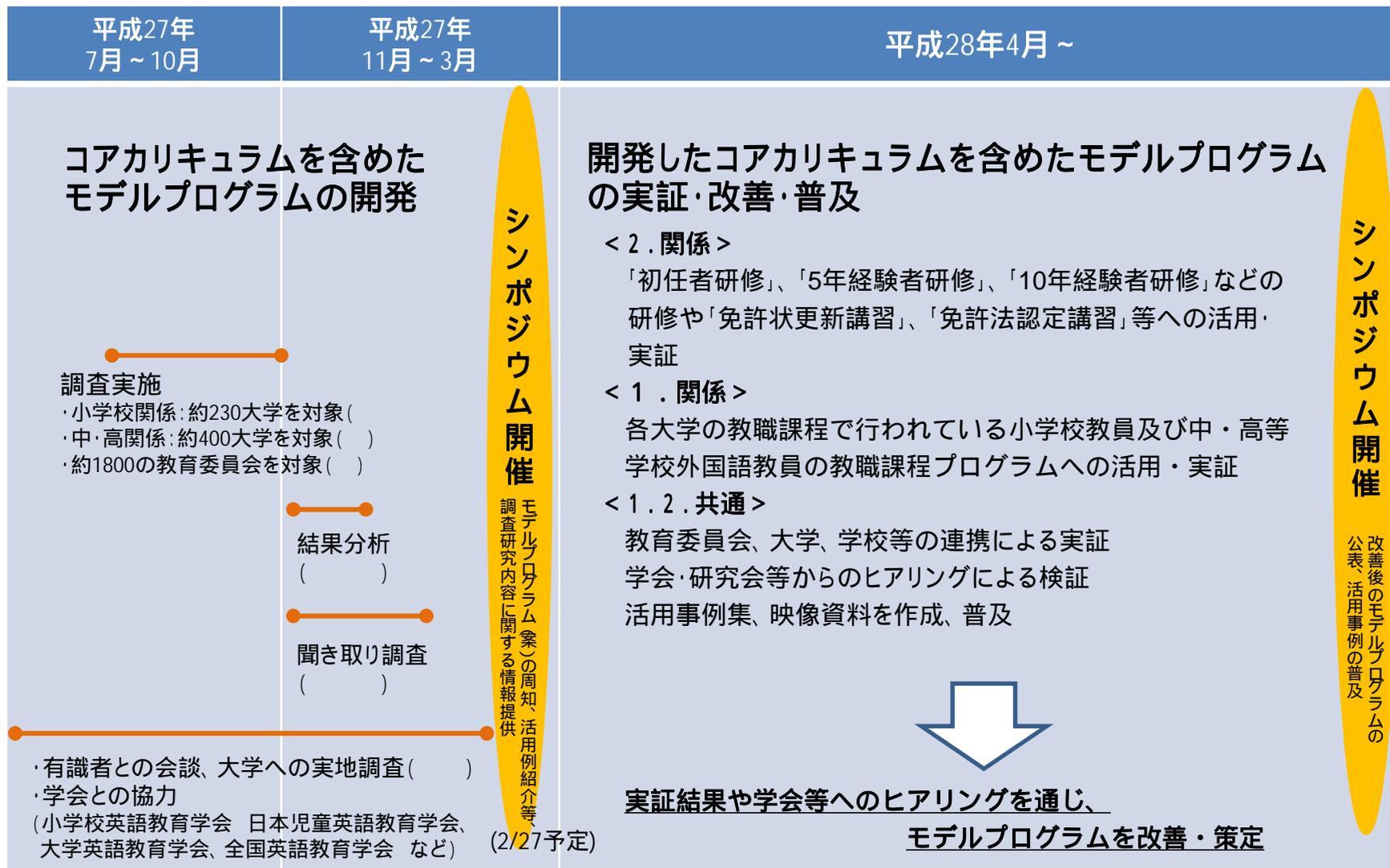
**統括者：粕谷恭子**  
 (東京学芸大学教授)  
 現状の教員研修プログラムの調査・分析  
 ・約1800の自治体を対象にした質問紙調査  
 ・約10市町村への調査  
**効果的な教員研修モデルプログラムの開発**  
 ・英語関連学会との協力  
 ・有識者との意見交換  
**開発した教員研修モデルプログラムの普及**  
 ・教育委員会と連携し実証  
 ・シンポジウムの開催、報告書の作成

協力者

# 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究 スケジュール・イメージ

## 【調査研究内容】

1. 小学校教員、中・高等学校英語担当教員の英語力・指導力向上に向け、コアカリキュラムを含めたプログラムの開発・検証
2. 小・中・高等学校の現職教員を対象とした教員研修プログラムの開発・検証



教員養成プログラムの全体目標

- ・授業設計と指導技術の基本を身に付ける。
- ・小学校において外国語(英語)の授業ができる英語力・指導力を身に付ける。

児童が外国語教育において身に付けるべき資質・能力  
(中央教育審議会外国語ワーキンググループ資料より)

個別の知識や技能

外国語活動

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること
- ・外国語を聞いたり、話したりすること
- ・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

教科としての外国語

- ・聞くことに関する知識・技能
- ・話すことに関する知識・技能
- ・外国語を読んだり、書いたりすること
- ・言葉への仕組みへの気づき(音、単語、語順など)

思考力・判断力・表現力等

外国語活動・教科としての外国語

- ・簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りにことについて、友達に質問したり答えたりするコミュニケーション能力
- ・馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力

学びに向かう力、人間性等

外国語活動・教科としての外国語

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・言語や文化に対する関心 など

教職に関する科目の授業内容と方法 2単位程度以上

現在の小学校外国語教育についての知識・理解

- ・外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領(小学校・中高等学校外国語科)
- ・主教材(教科書やデジタル教材など)
- ・小中高の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割 多様なニーズ どうしましょう？

子どもの第二言語習得についての知識・理解

子どもの学び方の特徴

- ・言語使用を通して言語習得へ・類推から理解へ
- ・音声に対する感受性

ことばの学ばれ方の特徴

- ・国語教育との連携によることばへの気づき
- ・意味内容重視
- ・受信から発信、音声から文字へ

授業実践

指導技術

- ・英語での語りかけ方
- ・児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方
- ・文字言語の与え方・書く活動への導き方

授業づくり

- ・題材の選定・教材開発の仕方=削除 下に抱合
- ・年間指導計画・単元構成・1時間の授業構成・様々な活動・指導案作成の仕方・短時間学習等の設定
- ・TTによる指導のあり方
- ・教材・ICTの活用の仕方 教材研究(ICTを含む教材の活用・開発等)の仕方
- ・CAN-DO形式の到達目標と評価の活用

授業担当  
教員による  
実演

授業観察や体験

映像視聴  
授業参観

授業設計

授業準備

授業実施

振り返り

授業改善  
原稿にない  
ので箱  
ごと削除

教科に関する科目の授業内容 2単位程度以上

授業実践に必要な英語力等

英語コミュニケーション

聞くこと

話すこと

技能統合型  
の活動

読むこと

書くこと

英語の基本的な音声の仕組み

音声・語彙・文法の基本的な知識

発音と綴りの関係

第二言語習得理論の基礎

マザーグース・絵本・児童文学

様々な国・地域の生活・習慣

異文化交流

教職に関する科目・教科に関する科目の授業内容は、取り扱う要素を示している

中・高等学校 教員養成コアカリキュラム 構造図 (案)

コアカリキュラムの全体目標

- ・生徒の4技能にわたる総合的なコミュニケーション能力を育成するための授業の組み立て方及び指導・評価の基礎を身に付ける。
- ・生徒の理解の程度に応じて英語で授業ができる指導力を身に付ける。
- ・CEFR B2 レベルの英語力を身に付ける。

生徒が身に付けるべき資質・能力

(中央教育審議会外国語ワーキンググループ第5回資料より)

個別の知識・技能

- 聞くことに関する知識・技能
- 話すことに関する知識・技能
- 読むことに関する知識・技能
- 書くことに関する知識・技能
- 言語の働き, 役割についての理解

思考力・判断力・表現力等

- 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力
- 聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

学びに向かう力, 人間性等

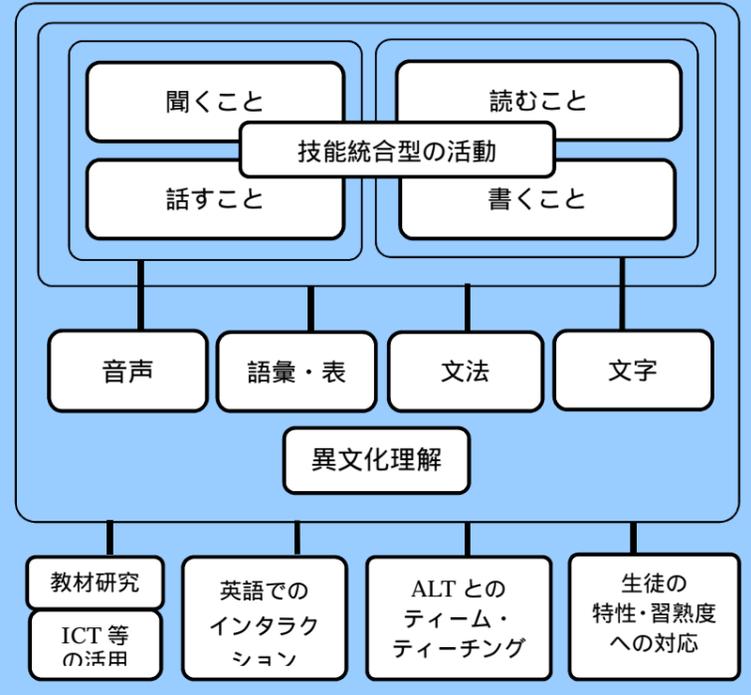
- 他者を尊重し, 聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら, 外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度
- 言語や文化に対する関心

教職に関する科目(英語科の指導法)【8単位以上】 内容・方法

カリキュラム/シラバス

- 学習指導要領
- 教科用図書
- 目標設定・指導計画
- 小中高連携

生徒の資質・能力を高める指導



授業づくり

- 学習到達目標に基づく授業の組み立て
- 学習指導案の作成

評価

- 観点別学習状況の評価・評価規準・評定
- 言語能力の測定と評価

専門知識

- 第二言語習得論
- 測定・評価理論
- 指導法の歴史
- 英語教育史・言語政策

授業映像の視聴や授業の参観

授業実演を生徒の立場で体験

計画・準備

実施

模擬授業

振り返り

改善

教科に関する科目【20単位以上】 内容

英語コミュニケーション

- 聞くこと
- 読むこと
- 話すこと(発表・やりとり)
- 書くこと
- 技能統合型の活動

英語学

- 英語の音声の仕組み
- 英語教育に関わる英文法
- 英語の歴史の変遷, 国際共通語としての英語

異文化コミュニケーション

- 異文化交流
- 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化
- 英語で書かれた文学

# 小学校 教員研修 コア・カリキュラム構造図 (案)

(平成27年度英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業 試案)

## 児童が外国語教育において身に付けるべき資質・能力

### 個別の知識や技能

#### 外国語活動

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること
- ・外国語を聞いたり、話したりすること
- ・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

#### 教科としての外国語

- ・聞くことに関する知識・技能
- ・話すことに関する知識・技能
- ・外国語を読んだり、書いたりすることに関する知識・技術
- ・言葉への仕組みへの気づき(音、単語、語順など)

### 思考力・判断力・表現力等

#### 外国語活動・教科としての外国語

- ・簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りにことについて、友達に質問したり答えたりするコミュニケーション能力
- ・馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問にえたりするコミュニケーション能力

### 学びに向かう力、人間性等

#### 外国語活動・教科としての外国語

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・言語や文化に対する関心 など

## 教職に関する科目

### 指導力

#### 指導に必要な知識・技能

子どもの第二言語の学び方の特徴  
言葉の学ばれ方の特徴  
英語での語りかけ方  
児童の発話の引き出し方  
児童とのやりとりの進め方  
題材の選定の仕方  
短時間学習のデザイン  
単元・1時間の授業構成・さまざまな活動・指導案の作成の仕方  
ITによる指導のあり方  
教材・ICTの活用の仕方

教材開発の仕方  
音声・語彙・文法の基本的知識の確立  
文字言語の与え方・書かへへの導き方  
意味のある活動のデザイン  
年間指導計画の作成の仕方  
CAN DO形式の到達目標と評価の活用  
小・中・高の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割  
第二言語習得理論の基礎

多様な児童のニーズへの対応のあり方(発達段階・複式学級・外国籍児童・特別支援学校/学級など)  
国語教育との連携によることばへの気づき

#### 授業研究

授業観察

授業公開  
授業改善

公開授業等の企画・運営

## 教科に関する科目

### 英語力

発音や強勢、リズム、ピッチ、イントネーションを意識した発話ができる英語力  
英語で授業を進めることができる英語力

クラスルームイングリッシュを土台に意味のあるやり取りができる英語力  
児童の発話や行動に対し、適切に対応できる英語力  
正書法・発音と綴りの関係の理解

ALTと授業について打ち合わせができる英語力

教員養成

教員採用

### 1～3年目

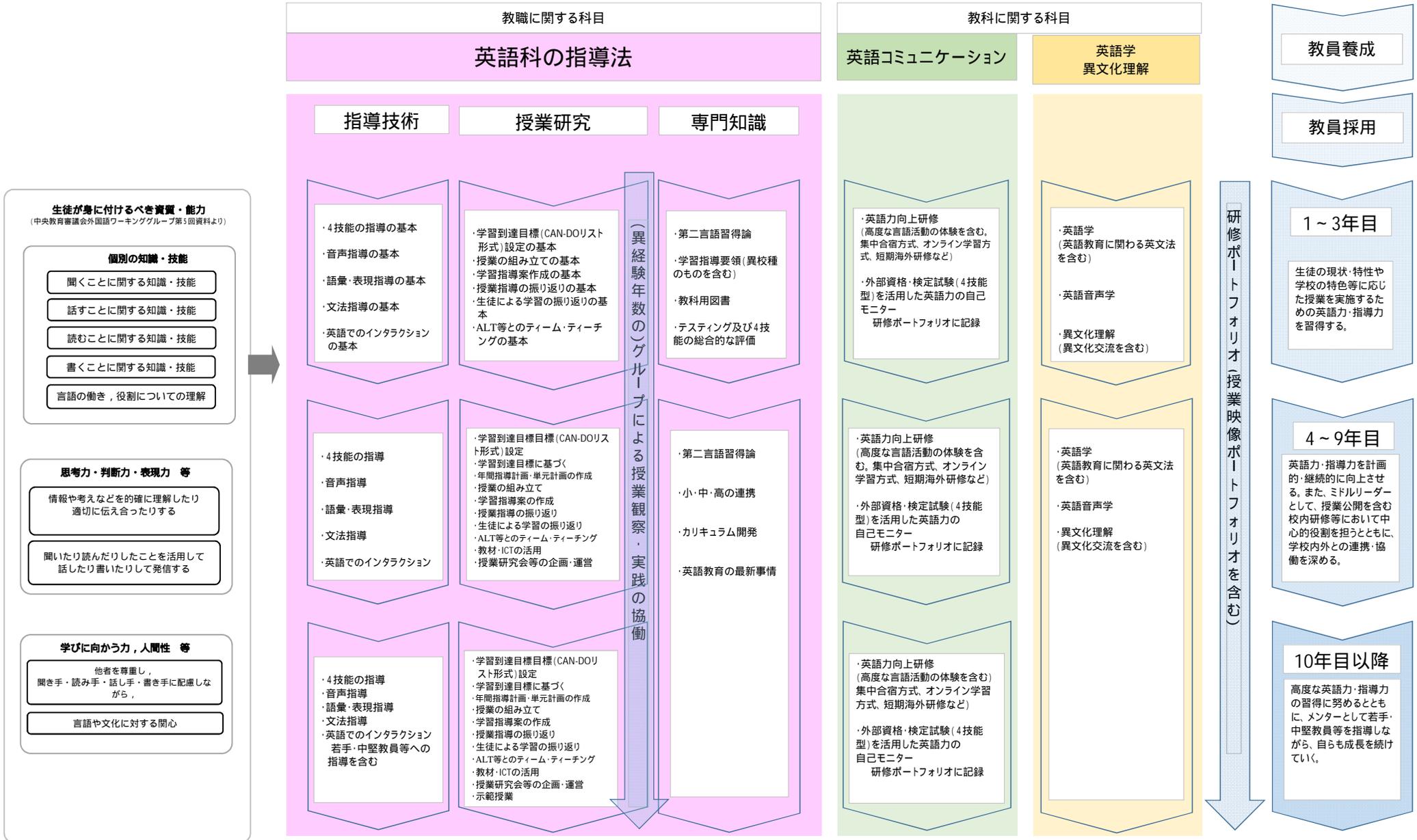
児童の特性や発達段階、学校の特色に合わせて授業活動を行うための英語力・指導力を向上させる。

### 4～9年目

英語力・指導力を磨き、校内研修や公開授業等の中心的役割を担い、各学校での外国語教育の質の向上に貢献する。

### 10年目以降

英語力・指導力をさらに磨き、メンターとして後進の指導にあたる。



# 小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業

▶ 「第2期教育振興基本計画」(H25年6月閣議決定：H25～29年度)の目標設定の下、文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表(H25年12月)  
平成26年度より事業開始

## PDCAサイクルの徹底

第2期教育振興基本計画(H25～29年度)の成果目標

[生徒の英語力] 中学卒業段階では英検3級程度以上 50%,高校卒業段階では英検準2級～2級程度以上 50%

[教員の英語力] 英語教員は英検準1級、TOEFLiBT80点程度以上 (中学英語教員は50%、高校英語教員は75%以上)

### 英語教育強化地域拠点事業(29地域)(H26年度～)

- ・小学校早期化・教科化等の実践、小・中・高を通じたCAN-DOリスト策定等
- ・児童生徒の変容・外部試験による効果検証(28年度は中間評価)

### 小学校英語早期化・教科化に向けた新たな補助教材

#### 開発・検証

- ・学習指導要領改訂の補助教材の検証・教材開発(28年6月検討委員会設置)  
補助教材の開発・実証(H26～28年度) 新教材の開発(29年度)

### 外部試験団体と連携した生徒の英語力調査

- ・高校3年：約7万人(H26、27), 中学3年：約6万人(H27、28)
- ・英語力の把握、中・高校の指導法等の改善に活用

中学3年は全国学力・学習状況調査へ

### 中・高等学校における英語教育の抜本改善のための指導方法

#### 等に関する実証研究(H28年度新規)(3地域)

### 外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上(H26年度～)

- ・地域の小・中・高「英語教育推進リーダー」養成・悉皆研修
- ・県の「英語教育改善プラン」策定・公表(H28年度～)

(教員の英語力・指導力の目標設定・公表・検証・改善を含む)

### 教員養成の抜本改善(H27・28年度)

- ・コアカリキュラム開発・検証・策定
- ・今後の養成課程の改善

### 小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の

#### 開発・実施

- ・小学校各校一人の「中核教員」等の専門性向上
- ・教育委員会と大学の連携による中英二種免許状取得「免許法認定講習」+ 小学校教科化に対応した新たな指導法等の科目(H28年度～)
- ・放送大学において、教科化に対応した英語指導力向上のための講座を開設予定(H29年度～)

### 教員の採用改善

- ・英語力の条件の見直しを県へ要請、取組把握・公表・改善

### 新たな英語教育のための現職研修・採用・養成の工程(小学校)

26年度

27年度

28年度

29年度

30年度

31年度

32年度

33年度

34

35

中教審・審議

学習指導  
要領改訂

小学校：次期指導要領を  
段階的に先行実施

小学校全面実施

現職研修

外部専門機関と連携した現職教員の英語力・指導力向上事業

採用

小学校教員の中学英語免許併有を促進(各校の中核教員)

養成

採用改善の周知・徹底

各県の採用改善

教職課程 コアカリ  
キュラム開発・検証

各大学による教職課程の改善

英語力・指導  
力の高い  
教員の養成・  
採用・研修を  
一体的に推進

制度改善後の新卒  
免許取得者を順次  
採用・配置

小学校 教員養成コア・カリキュラム構造図（試案）

教員養成プログラムの全体目標

- ・授業設計と指導技術の基本を身に付ける。
- ・小学校において外国語活動・外国語（英語）の授業ができる英語力・指導力を身に付ける。

児童が外国語教育において身に付けるべき資質・能力  
（中央教育審議会外国語ワーキンググループ資料より）

個別の知識や技能

外国語活動

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること
- ・外国語を聞いたり、話したりすること
- ・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

外国語

- ・聞くことに関する知識・技能
- ・話すことに関する知識・技能
- ・外国語を読んだり、書いたりすること
- ・言葉の仕組みへの気づき（音、単語、語順など）

思考力・判断力・表現力等

外国語活動・外国語

- ・簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の周りのことについて、友達に質問したり答えたりするコミュニケーション能力
- ・馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力

学びに向かう力、人間性等

外国語活動・外国語

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・言語や文化に対する関心 など

教職に関する科目の授業内容と方法 2単位程度以上

現在の小学校外国語教育についての知識・理解

- ・外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領（小学校・中高等学校外国語科）
- ・主教材(教科書やデジタル教材など)
- ・小中高の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割
- ・多様な学校・児童のニーズへの対応のあり方

子どもの第二言語習得についての知識・理解

子どもの学び方の特徴

- ・言語使用を通して言語習得へ・類推から理解へ
- ・音声に対する敏感さ

ことばの学ばれ方の特徴

- ・国語教育との連携によることばへの気づき
- ・意味内容重視
- ・受信から発信、音声から文字へ

授業実践

指導技術

- ・英語での語りかけ方
- ・児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方
- ・文字言語の与え方・読む活動・書く活動への導き方

授業づくり

- ・題材の選定・教材開発の仕方
- ・年間指導計画・単元構成・1時間の授業構成・様々な活動・指導案作成の仕方・短時間学習等の設定
- ・ティーム・ティーチングによる指導のあり方
- ・教材・ICTの活用の仕方
- ・CAN-DO リスト形式の学習到達目標と評価における活用

授業観察や体験

授業担当  
教員による  
実演

映像視聴  
授業参観

模擬授業

授業設計

授業準備

授業実施

振り返り

授業改善

教科に関する科目の授業内容 2単位程度以上

授業実践に必要な英語力等

英語コミュニケーション

聞くこと

話すこと

技能統合型の活動

読むこと

書くこと

英語運用に必要な基本的な知識等

英語の基本的な音声の仕組み

音声・語彙・文法の基本的な知識

発音と綴りの関係

第二言語習得理論の基礎

マザーグース・絵本・児童文学

様々な国・地域の生活・習慣

異文化交流

※教職に関する科目・教科に関する科目の授業内容は、取り扱う要素を示している

中・高等学校 教員養成コア・カリキュラム 構造図 (試案)

コア・カリキュラムの全体目標

- ・生徒の4技能にわたる総合的なコミュニケーション能力を育成するための授業の組み立て方及び指導・評価の基礎を身に付ける。
- ・生徒の理解の程度に応じて英語で授業ができる指導力を身に付ける。
- ・CEFR B2 レベルの英語力を身に付ける。

生徒が身に付けるべき資質・能力

(中央教育審議会外国語ワーキンググループ第5回資料より)

個別の知識・技能

- 聞くことに関する知識・技能
- 話すことに関する知識・技能
- 読むことに関する知識・技能
- 書くことに関する知識・技能
- 言語の働き、役割についての理解

思考力・判断力・表現力等

- 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力
- 聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力

学びに向かう力、人間性等

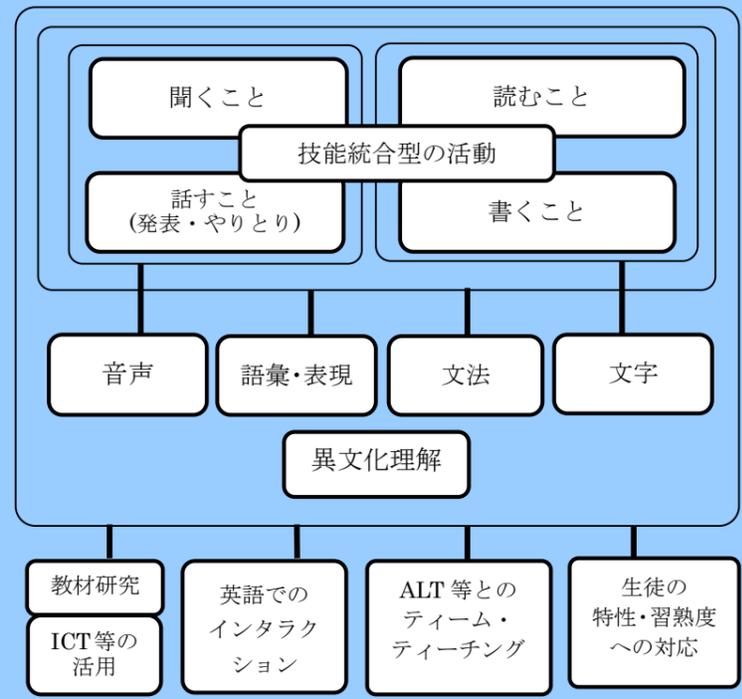
- 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度
- 言語や文化に対する関心

教職に関する科目 (英語科の指導法) 【8単位以上】 内容・方法

カリキュラム/シラバス

- 学習指導要領
- 教科用図書
- 目標設定・指導計画
- 小中高連携

生徒の資質・能力を高める指導



授業づくり

- 学習到達目標に基づく授業の組み立て
- 学習指導案の作成

学習評価

- 観点別学習状況の評価・評価規準・評定
- 言語能力の測定と評価 (パフォーマンス評価を含む)

専門知識

- 第二言語習得論
- 測定・評価理論
- 指導法の歴史
- 英語教育史・言語政策

授業観察

授業映像の  
視聴や  
授業の参観

授業体験

授業実演を  
生徒の立場  
で体験

模擬授業

- 授業設計
- 授業準備
- 授業実施
- 振り返り
- 授業改善

教科に関する科目 【20単位以上】 内容

英語コミュニケーション

- 聞くこと
- 読むこと
- 話すこと(発表・やりとり)
- 書くこと
- 技能統合型の活動

英語学

- 英語の音声の仕組み
- 英語教育に関わる英文法
- 英語の歴史の変遷, 国際共通語としての英語

異文化理解・文学

- 異文化コミュニケーション
- 異文化交流
- 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化
- 英語で書かれた文学